

①毛利元就の御里屋敷跡

元就晩年の御里屋敷跡といわれ、弘治三年（一五五七）に三子への教訓状を与えた元就は、元龜二年（一五七二）六月一日四七五歳で病没、波乱の一生でした。

②「三矢の訓跡」碑

三子に与えた協同一致の教訓状から、旧大江中学校生徒会が御里屋敷跡に建立したものです。

③元就の火葬場跡

初七日の法会後に、竹原妙法寺（現在の西方寺）の住持 嘯岳鼎虎禪師を導師に火葬されました。

④毛利隆元の墓所

元就の長男隆元は、父の出雲攻略を応援のため吉田を出発し、途中佐々部（安芸高田市高宮町）で和智誠春の接待を受けて、翌朝永祿六年（一五六三）八月四日四一歳で急死しました。

墓碑「大膳大夫四位下大江隆元朝臣之墓」

⑤常栄寺跡

隆元の菩提寺で、山口の国清寺の住持 竺雲恵心の開山です。勅願道場となり正親町天皇の「常栄広刹禪寺」の勅願を受けました。毛利氏の移封後、寺は山口に移り、雪舟庭で有名な現在の常栄寺となっています。

※ 駐車場広場に、「毛利元就と戦国武将」の説明板があります。

※ 大通院跡は、郡山七代城主毛利熙元（大通院殿大樹光茂大居士）の菩提寺があった所です。

※ 大通院谷には、日本一長い薬研堀が遺っています。

※ 妙玖庵跡は、元就の室「妙玖寺殿成室玖公大姉」の寺跡です。

現在、墓碑の所在は不明です。

⑥洞春寺跡

元就の三回忌に、孫輝元が嘯岳鼎虎禪師を開山として、天正元年（一五七三）に建立した臨済宗の菩提寺です。現在、山口市内にあります。

⑦毛利元就の墓所

前庭には、元就の簡略な説明板があります。前域には、毛利氏の紋「一に三つ星」と、手前一列目の石灯籠には、菊紋を付けた九代広島藩主浅野重晟・吉田の名医土生玄碩・山口県士族一八人が奉献したもの。二・三列目は、毛利氏親族のもの。四列目は、七代広島藩主浅野吉長奉献の石灯籠が並んでいます。

後域には、広島藩主浅野吉長寄進の石垣をめぐらし、標樹に近く「贈従三位大江朝臣元就卿御墓」の墓碑があります。

毎年七月一日には、墓前祭が行われます。

⑧百万一心碑

元就墓所内にあり、郡山築城の際に元就が、人柱に代えて一日一力一心の大石を鎮めとしたという模彫の碑が、吉田町郷土史調査会で建てられています。日を一にして、力を一にし、心を一にするという協同一致の精神を示したものです。

⑨毛利一族の墓所

元就墓所の下段で、洞春寺境内跡です。郡山初代城主毛利時親以来歴代一門の墓が、明治二年（一八六九）ここに改葬されました。

狭域内は、時親から八代豊元までの合墓で、それぞれの墓は大通院谷にあったものです。

広域内には、正面左から元就の兄興元・その子幸松丸・隆元の室多々良氏の墓が並んでいます。

⑩嘯岳鼎虎禪師の墓

郡山登山道の右側にある、宝篋印塔式の墓で、石灯籠は山口洞春寺が建てたものです。禪師は二度も明に渡り帰国、紫衣を賜り、元就が尊敬して竹原妙法寺から度々吉田に招き参禅、元就葬儀の導師を勤め洞春寺の開山となった高僧です。

⑪御蔵屋敷跡

面積六〇〇㎡の広い敷地の、兵糧蔵跡です。

⑫三の丸

城内最大の曲輪（一四〇〇㎡）で、ここは土塁や削出し等で四段に分かれています。西と南の段は石塁でへだて、北の段とも一mの比高差をとり、石垣で区画されています。

⑬二の丸

周囲を高さ五〇cm幅一mの石塁や石垣で、二七mと一五mの方形に区画されています。実用面積は約四〇〇㎡です。

⑭本丸

郡山の山頂に位置し、一辺が約三五mの曲輪で、北端に一段高くなった櫓台（長さ二三m幅一〇m）があり、標高は三八九・七mで、比高は約二〇〇mです。

城の遺構は山頂の曲輪を中心に放射状にのびる六本の尾根、さらにそれからのびる六本の支尾根の計一二本の尾根とそれらに挟まれた谷を曲輪や道で有機的に結合させて、まとまりのある複雑な構造になっています。

大永三年（一五二三）に元就が宗家の郡山城を相続して以来、郡山の南東にあった城（旧本城）を郡山全山に拡大しました。元就はここを本拠城として、幾多の合戦を経て中国地方の統一を成し遂げました。

⑮厩の壇跡

三の丸の東から東南方にのびる約四〇〇mの尾根の基部で、壇の下に馬場があります。

⑯釜屋の壇跡

本丸から一五m下がった北側に位置し、炊事場にあたる所です。ここから北側に続く狭い五つの段を経て、羽子の丸に至ります。姫の丸壇跡、厩の壇跡へは、通路で結ばれています。

⑰羽子の丸跡

郡山の艮（うしとら）の方向で、釜屋の壇とは幅七m深さ三mの堀切でへだてられ、城内では独立的な機能を備えていたようです。

⑱姫の丸壇跡

本丸北側の石垣はこの壇が基礎となり、この石垣

中に、「一日一力一心」の文字を刻んだ礎石を埋めたとわれています。

⑲釣井の壇跡

この壇に直径二・五mの石垣井戸があり、本丸に最も近い水源です。今は埋もれて深さ約四mとなり、水は湧いていません。

⑳勢溜の壇跡

御蔵屋敷跡の下段を、堀切で区画して独立させた、大小一〇段からなる大型曲輪です。

㉑満願寺跡

毛利氏の郡山入城以前からあった寺と伝えられ、境内には今も二つの蓮池が残っています。行基菩薩が可愛川から得られた小さな観音を安置するために、自ら千手観音を彫刻してこの寺を建立したと伝えられています。

㉒妙寿寺曲輪跡

郡山の南側を守る曲輪群です。

㉓尾崎丸跡

旧本城との間を三条の堀切でへだてた、独立的な曲輪群にあり、その中では最大の所です。

ここは、隆元の居所であった所と考えられます。

㉔旧本城跡

郡山南東の麓に位置し、建武三年（一三三六）毛利時親が築城以来、元就が郡山全山を城郭とするまでの、一一代約一九〇年間、毛利氏の本城でした。標高二九三m、比高は約九〇mですが、鎌倉時代の山城形態がよくわかる城跡です。

㉕清神社

『日本書紀』の八岐大蛇退治の註に、「安芸国可愛川之川上」とも書かれており、この社の祭神は素戔鳴尊です。可愛川は、吉田の南側を悠久の昔から流れている川です。

この神社には、毛利時親郡山築城以前の正中二年（一三二五）からの棟札が一六枚もあり、広島県重要文化財に指定されています。毛利氏も郡山の鎮守社として崇敬が篤く、元就時代には、祇園村があり杜領五百石が与えられています。

現在の本殿は、元禄七年（一六九四）の建立です。平成一八年（二〇〇六）安芸高田市指定文化財（建造物）に、また境内五本の杉の巨木も当市の天然記念物に指定されています。

毎年五月五日が市入祭で、延宝二年（一六七四）から「だんじり」が供奉され、今も子供歌舞伎が連綿として演じられています。

㉖興禅寺跡（郡山公園）

この一帯は毛利氏時代の興禅寺跡で、当時興禅寺村が置かれ、寺領を与え保護されています。この寺は、広島に移り現存しています。

公園は大正四年（一九一五）の築造で、浅野長厚三万石の居館に付設された「文久亭」を拡大修復したのが郡山公園です。